英文解釈 L01 第 11 講 疑問の内容を表す節を読む

学習目標

- if・whether・疑問詞で始まる節を、疑問の内容を表す一まとまりとして読める。
- 指定された節の範囲を確定し、主節の目的語など、文全体の中での役割を説明できる。
- 節が表す疑問内容と文全体の発話を区別し、主節の時制・否定・判断などを保って自然な日本語に訳せる。

凡例：S＝主語、V＝述語動詞、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語。main は主節の外側の骨格と疑問内容節全体の役割、inner は疑問内容節の内部構造を示す。名詞の働きをするまとまりは〈〉、形容詞の働きをするまとまりは〔〕、副詞の働きをするまとまりは( )で示し、V には下線を付ける。

疑問の内容を一まとまりとして読む

英語では、「〜かどうか」という疑問の内容を、動詞の目的語として文の中に組み込むことができる。このとき大切なのは、**文の中に疑問の内容があっても、文全体が質問しているとは限らない**という点だ。まず主節が何を述べているかを確認し、その中で疑問の内容がどのような役割を担うかを考えよう。

if 節：尋ねた内容を読む

語注 stay open：開館したままでいる

〈The teacher〉 asked
S V

〈if the library would stay open until six on the day of the school festival〉.
O

O “if the library would stay open until six on the day of the school festival” / 開館継続の可否を尋ねた内容全体。

The teacher asked if 〈the library〉 would stay open (until six)
S V C M

(on 〈the day 〔of 〈the school festival〉〕〉).
M

V “would stay” / 過去の asked を基準とする would stay。
C “open” / 開館した状態を表す。
M “until six” / 開館状態が続く終点。
M “on the day of the school festival” / 文化祭当日の開館状況を問う読みを採用。

訳：先生は、文化祭の日に図書館が 6 時まで開館しているかどうかを尋ねた。

この文の主節は、The teacher が主語、asked が述語動詞で、「先生が尋ねた」という出来事を表している。一方、if から文末の festival までには、the library を主語、would stay open を述語とする別の節があり、「図書館が 6 時まで開いているかどうか」という疑問内容を表している。

読み方のポイントは、**if から節の終わりまでをまとめて、asked の目的語（O）として捉えること**だ。文全体は「図書館は開いていますか」と直接質問する文ではなく、「先生がそのことを尋ねた」と述べる文である。また、would を含む内容節を訳すときも、主節の asked が表す過去の出来事との時間関係を保つ。

©ミライコーチング

whether 節：知っていた内容を読む

語注 gym：体育館／available for：〜に利用できる

〈The coach〉 already knew
S M V

〈whether the school gym was available for basketball practice on Saturday afternoon〉.
O

M “already” / 知っていたことを「すでに」と補う。
O “whether the school gym was available for basketball practice on Saturday afternoon” / 利用できるかどうかを知っていた内容全体。

The coach already knew whether 〈the school gym〉 was
S V

〔available for 〈basketball practice〉〕 (on 〈Saturday afternoon〉).
C M

C “available for basketball practice” / available と for 以下が一体となり、体育館の利用可能な用途を表す。
M “on Saturday afternoon” / 体育館を利用できる時を示す読みを採用。

訳：コーチは、土曜日の午後に学校の体育館がバスケットボールの練習に使えるかどうかを、すでに知っていた。

この文では、The coach が主語、knew が主節の述語動詞であり、already は「すでに」という意味を加えている。whether から文末の afternoon までは、the school gym を主語、was available を述語とする疑問内容の節で、全体が knew の目的語（O）になっている。

ここで注意したいのは、**whether があるからといって、コーチが答えを知らなかったわけではない**ということだ。主節の already knew は「すでに知っていた」を表すため、訳でもその意味を残す必要がある。ただし、体育館が実際に使えたのか使えなかったのかまでは、この文から決められない。

このように、if・whether の節を読むときは、節の内部で「何がどうなのか」を確認し、節全体を一つの疑問内容として外側の主節へ戻す。この 2 文のように動詞の目的語となる位置では if と whether のどちらも使えるため、両者の違いを無理に決めるより、**主節がその疑問内容について何を述べているか**を正確に読むことが重要だ。

疑問詞の焦点と節内の語順を読む

if・whether の節が「〜かどうか」を表すのに対し、疑問詞の節では「どこで」「いつ」「誰が」など、具体的に何が問われているかが示される。読むときは、疑問詞の意味だけでなく、**その疑問詞が節の内部でどのような働きをしているか**を確かめることが大切だ。特に、疑問詞の直後に必ず別の主語が続くとは限らない。

where：場所が疑問の焦点になる

語注 place：置く／exhibition：展示会

〈The art teacher〉 explained
S V

〈where the students should place their paintings for the school exhibition on Friday〉.
O

O “where the students should place their paintings for the school exhibition on Friday” / 絵を置く先の場所を説明した内容全体。on Friday は展示会の日時と読む。

The art teacher explained 〈where 〈the students〉 should place 〈their paintings〉
M S V O

(for 〈the school exhibition 〔on Friday〕〉)〉.
M

M “where” / 絵を置く先の場所を問う。単なる任意の現場情報ではない。
M “for the school exhibition on Friday” / 配置の目的となる展示会。on Friday は展示会の日時を表す。

訳：美術の先生は、金曜日の学校の展示会に向けて、生徒たちが自分たちの絵をどこに置くべきかを説明した。

この文の主節は、The art teacher が主語、explained が述語動詞で、「美術の先生が説明した」という出来事を表している。ここでは on Friday を school exhibition に結び付け、金曜日の展示会に向けて絵を置く場所を問う読みを採用するため、where から文末の Friday までが疑問内容の節となり、その全体が explained の目的語（O）になる。ただし、on Friday を主節の explained にかける読みも可能で、その場合は疑問内容の節が exhibition で終わり、説明した日が金曜日だったという意味になる。

節の内部を見ると、the students が主語、should place が述語で、their paintings が置く対象を表している。where は「どこに」という場所を尋ねる疑問詞であり、**節の主語ではなく、their paintings を置く先の場所を表す副詞的な働き**をしている。したがって、where の後ろに the students という主語が続き、その後に should place という述語が来る平叙文と同じ語順になっている。

解説

who：疑問詞そのものが主語になる

語注 principal：校長／announce：発表する／guide A around B：A を B の中で案内して回る

〈The principal〉 announced
S V

〈who would guide the new students around the school on Monday morning〉.
O

O “who would guide the new students around the school on Monday morning” / 誰が新入生を案内するのかという発表内容全体。

The principal announced 〈who would guide 〈the new students〉
S V O

(around 〈the school〉) (on 〈Monday morning〉)〉.
M M

S “who” / who 自身が案内する人物を表す主語。別の主語はない。
M “around the school” / guide と結び付き、校内を案内して回る範囲を表す。
M “on Monday morning” / 案内する日時として読む。発表日時を表す別読も可能。

訳：校長は、月曜日の朝に誰が新入生を校内で案内するのかを発表した。

この文では、The principal が主語、announced が主節の述語動詞である。who から文末の morning までが「誰が新入生を案内するのか」という疑問内容を表す節であり、節全体が announced の目的語（O）を占めている。

先ほどの where とは異なり、この who は「誰が」という意味を表し、**疑問詞そのものが節内部の主語（S）になっている**。そのため、who の直後に would guide という述語が続いており、別の主語を探す必要はない。would guide の動作をする人物が who で問われているのであって、who の後ろに主語が省略されているわけではない。

2 文を比べると、where は絵を置く先の場所を表し、節内には別に the students という主語がある。一方、who は案内する人物そのものを表す主語なので、別の主語が省略されているわけではなく、そのまま would guide という述語につながる。どちらも疑問内容を表す節だが、文全体では「説明した」「発表した」と述べている点は共通している。

このように疑問詞の節では、**何が問われているかを確認し、疑問詞自身の役割から節内の主語と述語を見極める**。そのうえで節の終わりまでを一まとまりにし、主節の目的語などの位置へ戻して読むことで、文全体の意味を正確につかめる。

節の終端から外側の役割へ戻る

疑問内容を表す節は、if・whether・疑問詞だけで完結するわけではない。節の内部には主語と述語があり、その述語につながる目的語・補語や、場所・時などを説明する修飾語が続くこともある。**節の終わりは疑問語からの距離ではなく、どの語句が節内部の内容に属するかを根拠に決める**ことが重要だ。

節内部の目的語・補足情報まで含めて読む

語注 instructor：講師／organize A into B：A を B に分けて整理する／section：区分／workshop：講習会

〈The instructor〉 described
S V

〈how the students could organize their notes into three sections during the workshop〉.
O

O “how the students could organize their notes into three sections during the workshop” / ノートを整理する方法について説明した内容全体。during 以下は節内の時間表現とする。

The instructor described 〈how 〈the students〉 could organize 〈their notes〉
M S V O

(into 〈three sections〉) (during 〈the workshop〉)〉.
M M

M “how” / ノートを整理する方法を問う。
M “into three sections” / ノートを 3 つの区分に分ける整理の結果を示す。
M “during the workshop” / 整理する時を表す採用読み。主節の described にかける別読も可能。

訳：講師は、講習会の間に生徒たちがノートを 3 つの区分に整理する方法を説明した。

この文では、The instructor が主節の主語、described が述語動詞である。how から始まる節の内部では、the students が主語、could organize が述語となり、their notes が整理する対象、into three sections がどのように整理するかを具体的に示している。how だけを described の目的語とするのではなく、**整理する動作とその内容を表す語句を一まとまりにして捉える**必要がある。

上の訳では、during the workshop を節内部の could organize にかかる時間の修飾語として読んでいる。この場合、疑問内容の節は how から workshop までであり、その全体が described の目的語（O）になる。

ただし、during the workshop を主節の described にかかる修飾語と読むこともできる。その場合、疑問内容の節は how から sections までとなり、全文は「講師は講習会の間に、生徒たちがノートを 3 つの区分に整理する方法を説明した」と訳せる。**修飾語が節の内側と外側のどちらにも自然につながる場合は、文脈なしに一方だけを正しい読みと決めない**ことが大切だ。

節全体が主語になる場合も、終端を確かめる

語注 take place：開催される／remain unclear：はっきりしないままである

〈Whether the school sports festival could take place on Saturday〉 remained 〔unclear (to 〈the students and teachers〉)〕.
S　V　C　M

S “Whether the school sports festival could take place on Saturday” / 土曜日に体育祭を開催できるかどうかという疑問内容全体。
C “unclear” / 開催の可否がはっきりしない状態。
M “to the students and teachers” / 誰にとって不明なのかを補い、unclear に結び付く。

〈Whether 〈the school sports festival〉 could take place (on Saturday)〉 remained unclear to the students and teachers.
S　V　M

V “could take place” / could は開催の可能性を表す。実際の開催は断定しない。
M “on Saturday” / 体育祭の開催時を表す採用読み。主節側の時とする別読も可能。

訳：学校の体育祭が土曜日に開催できるかどうかは、生徒と先生にははっきりしないままだった。

この文は Whether から始まるため、まずその後に続く内容を一つの節として読む。節内部では、the school sports festival が主語、could take place が述語であり、on Saturday は体育祭が開催される時を示している。したがって、**whether から Saturday までが「体育祭を土曜日に開催できるかどうか」という一まとまり**になる。

その直後の remained unclear は、節の内部ではなく主節の述語と補語である。つまり、whether 節全体が主節の主語（S）となり、その疑問内容について「はっきりしないままだった」と述べている。to the students and teachers は、誰にとって不明だったのかを補っている。

この教材では、on Saturday を体育祭の開催時を表す語句として疑問内容の節に含め、節の終わりを Saturday とする。一方、remained unclear は外側の主節の述語と補語であり、疑問内容の節には含めない。ただし、on Saturday を主節側の時の修飾語と読むことも可能で、その場合は疑問内容の節が place で終わり、土曜日に開催の可否が不明な状態だったという訳になる。

疑問内容の節が目的語になる場合も主語になる場合も、読み方の基本は共通している。**まず節内部の述語と、それにつながる目的語・補語・修飾語を確認して終端を決め、そのまとまり全体が外側の文でどの位置を占めるかを確かめる。** この順序で読めば、節の一部だけを切り取ったり、主節の述語まで取り込んだりする誤読を防げる。

主節の意味を保って疑問内容を訳す

疑問内容を表す節の範囲と役割が分かっても、それだけでは全文の意味は完成しない。主節の動詞が「知っている」「尋ねる」「説明する」などのどの行為・状態を表すかによって、疑問内容との関係が変わるからだ。**疑問内容そのものと、それについて主節が何を述べているかを分けて読む**ことが、正確な和訳につながる。

knew：疑問内容の答えを知っていた

語注 event organizer：イベントの主催者／outdoor stage：屋外ステージ／be used for ～：～に使用される

〈The event organizer〉 already knew
S M V

〈whether the outdoor stage could be used for the evening concert〉.
O

M “already” / 知っていたことを「すでに」と補う。
V “knew” / 疑問内容の答えを知っていたことを表す。
O “whether the outdoor stage could be used for the evening concert” / 屋外ステージを使用できるかどうかという内容全体。実際の使用可否は示されていない。

The event organizer already knew 〈whether 〈the outdoor stage〉 could be used
S V

(for 〈the evening concert〉)〉.
M

V “could be used” / could と受動態 be used で使用の可能性を表す。実際の使用は断定しない。
M “for the evening concert” / used と結び付き、屋外ステージの使用目的を示す。

訳：イベントの主催者は、夜のコンサートに屋外ステージを使えるかどうかを、すでに知っていた。

この文の主節は、The event organizer が主語、already knew が「すでに知っていた」という意味を表している。whether から文末の concert までは、屋外ステージを使用できるかどうかという疑問内容を表す節であり、その全体が knew の目的語（O）になっている。

ここで重要なのは、**疑問内容が書かれていることと、その答えが分かっていないことは別だ**という点だ。主節の already knew から、主催者は使用できるかどうかをすでに把握していたと読める。しかし、英文には使用できるという答えも、使用できないという答えも示されていない。

また、節内部の could be used は「使用できる」という可能性を表している。「実際に使用された」と訳してしまうと、原文にない出来事を加えることになる。主節の「知っていた」と、疑問内容に含まれる「使用できるかどうか」をそれぞれ保って訳す必要がある。

解説

did not ask：尋ねる行為そのものが否定される

語注 visiting actor：客演の俳優／rehearsal：リハーサル

〈The theater manager〉 did not ask
S V M V

〈when the visiting actors would arrive for the evening rehearsal〉.
O

V “did” / 過去の否定を作る助動詞。
M “not” / 主節の ask を否定する。到着の事実を否定するものではない。
O “when the visiting actors would arrive for the evening rehearsal” / 俳優たちの到着時刻という疑問内容全体。尋ねなかった内容を表す。

The theater manager did not ask 〈when 〈the visiting actors〉 would arrive
M S V

(for 〈the evening rehearsal〉)〉.
M

M “when” / 客演の俳優たちが到着する時を問う。
V “would arrive” / 主節の過去の時点から見た到着。実際の到着は断定しない。
M “for the evening rehearsal” / 到着が関連する夜のリハーサルを示す。

訳：劇場の責任者は、客演の俳優たちが夜のリハーサルにいつ到着するのかを尋ねなかった。

この文では、The theater manager が主節の主語、did not ask が「尋ねなかった」という否定の述語である。when から文末の rehearsal までは、客演の俳優たちが到着する時を問う節であり、その全体が ask の目的語（O）になっている。

読み方のポイントは、**not が否定しているのは主節の ask であり、節内部の arrive ではない**ということだ。したがって、「俳優たちが到着しなかった」と訳すのは誤りである。また、責任者が到着時刻を知らなかったとも、知っていたとも、この英文だけでは決められない。

節内部の would arrive は、主節の過去の時点から見た到着を表している。これは到着が実際に起きたと断定する表現ではない。全文では、到着時刻という疑問内容を保ちながら、それを「尋ねなかった」という主節の否定に結び付けて読む。

この 2 文は、どちらも疑問内容の節が主節の目的語になっているが、文全体が伝えることは異なる。一方は疑問内容の答えを「すでに知っていた」と述べ、もう一方は疑問内容を「尋ねなかった」と述べている。**疑問内容だけを取り出して直接の質問に変えたり、主節の動詞・否定・可能性を落としたりせず、内側と外側の意味を組み合わせる**ことが大切だ。

1

語注 librarian：司書／suitable for ～：～に適している／shelf：棚

The librarian checked whether the science magazines on the top shelf were suitable for younger readers.

a. whether で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

例題 1 の解説

a. 疑問内容の節の範囲と役割

疑問内容の節は、**whether the science magazines on the top shelf were suitable for younger readers** である。この節全体が、主節の動詞 checked の目的語（O）になっている。

まず主節を見ると、The librarian が主語、checked が述語動詞で、「司書が確かめた」という出来事を表している。ここで「何を確かめたのか」に当たるのが、whether から始まる疑問内容の節だ。

節の内部では、the science magazines on the top shelf が主語であり、were suitable for younger readers がその主語について述べている。on the top shelf は science magazines を説明し、for younger readers は suitable と結び付いて、誰に適しているのかを示している。

したがって、whether だけを目的語として切り離したり、were suitable のところで節を終えたりしてはいけない。**この文では for younger readers が適している対象を示しているため、そこまで含めて「年少の読者に適しているかどうか」という疑問内容を捉える。** そのまとまり全体を checked の目的語として捉えることが、構造を読む根拠になる。

〈The librarian〉 checked
S V

〈whether the science magazines on the top shelf were suitable for younger readers〉.
O

V “checked” / 適しているかどうかを確かめた。確認結果は示されていない。
O “whether the science magazines on the top shelf were suitable for younger readers” / 年少の読者に適しているかどうかという疑問内容全体。

The librarian checked 〈whether 〈the science magazines 〔on 〈the top shelf〉〕〉
S

were 〔suitable (for 〈younger readers〉)〕〉.
V C

S “the science magazines on the top shelf” / 一番上の棚にある科学雑誌。on 以下は magazines を説明する。
C “suitable for younger readers” / suitable for younger readers 全体で、年少の読者への適合性を表す。

b. 全文和訳

直訳 司書は、一番上の棚にある科学雑誌が年少の読者に適しているかどうかを確かめた。

満点の訳 司書は、最上段の棚にある科学雑誌が年少の読者にふさわしいかどうかを確認した。

この文では、checked が表す「確かめた」という行為と、whether 節が表す「適しているかどうか」という疑問内容を区別する必要がある。「司書は、その科学雑誌が年少の読者に適していると確

認した」と訳すと、実際に適していたという結論を加えてしまう。原文は確認したことを述べているが、その結果までは示していない。

また、suitable for younger readers は「年少の読者に適している」「年少の読者にふさわしい」のどちらでも自然に表せる。上の 2 つの訳は、語句の表現こそ異なるが、確認した対象と主節の意味をともに保っている。

このように、疑問内容の節を訳す際は、**節の終端までの内容をまとめて訳し、それを主節の動詞が表す行為・状態に結び付ける**。疑問内容があるという理由だけで、確認の結果や事実関係を付け加えないことが重要だ。

2

語注 receptionist：受付係／collect：（用意されているものを）受け取る／audio guide：音声ガイド／special exhibition：特別展

The museum receptionist explained where visitors could collect the audio guides for the special exhibition.

a. where で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

例題 2 の解説

a. 疑問内容の節の範囲と役割

疑問内容の節は、**where visitors could collect the audio guides for the special exhibition** である。この節全体が、主節の動詞 explained の目的語（O）になっている。

まず主節を見ると、The museum receptionist が主語、explained が述語動詞で、「博物館の受付係が説明した」という出来事を表している。「何を説明したのか」に当たるのが、where から始まる疑問内容の節だ。

節の内部では、visitors が主語、could collect が述語であり、the audio guides が受け取る対象を表している。where は受け取る場所を表し、for the special exhibition は the audio guides を説明して、どの音声ガイドなのかを明らかにしている。

したがって、where だけを explained の目的語としたり、could collect の直後で節を終えたりしてはいけない。**受け取る対象は the audio guides for the special exhibition と指定されており、where が問うのはその受取場所である**。 対象を表す語句まで含めた疑問内容の節全体を、explained の目的語として捉える。

〈The museum receptionist〉 explained
S V

〈where visitors could collect the audio guides for the special exhibition〉.
O

V “explained” / 音声ガイドの受取場所を説明した。
O “where visitors could collect the audio guides for the special exhibition” / 来館者が音声ガイドをどこで受け取れるかという疑問内容全体。

The museum receptionist explained 〈where visitors could collect
M S V
〈the audio guides 〔for 〈the special exhibition〉〕〉〉.
O

M “where” / collect の受取場所を問う。音声ガイドの種類を問うのではない。
V “could collect” / could は受け取ることができるという可能性を表す。
O “the audio guides for the special exhibition” / 特別展用の音声ガイド。for 以下は audio guides を説明する。

b. 全文和訳 直訳 博物館の受付係は、来館者が特別展のための音声ガイドをどこで受け取ることができるかを説明した。

満点の訳 博物館の受付係は、来館者が特別展用の音声ガイドをどこで受け取れるのかを説明した。

この文で where が表すのは、音声ガイドを受け取る場所という疑問の焦点である。しかし、文全体は「どこで受け取れますか」と質問しているのではなく、受付係がその場所について「説明した」と述べている。**疑問内容を直接の質問に変えず、主節の explained と結び付けて訳す**ことが重要だ。

また、could collect は「受け取ることができる」という意味を表しており、来館者が実際に音声ガイドを受け取ったとは述べていない。「受付係が音声ガイドを渡した」と訳すと、原文にない行為を加えることになる。

上の 2 つの訳では、「特別展のための音声ガイド」と「特別展用の音声ガイド」、「受け取ることができる」と「受け取れる」をそれぞれ言い換えている。さらに、「来館者が特別展用の音声ガイドを受け取れる場所を、博物館の受付係が説明した」としても、原文の意味を保った自然な訳になる。

疑問詞の節を読むときは、**疑問詞が何を問うのかを捉え、節の終端までを一まとまりにしたうえで、主節の動詞がその内容について何を述べているかを確認する**。この順序を守れば、疑問の焦点と文全体の意味を取り違えずに訳せる。

1

語注 first-aid station：救護所／remain open：開いている状態が続く／sports festival：体育祭

The school nurse asked if the first-aid station would remain open until the end of the sports festival.

a. if で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

2

語注 event coordinator：イベントの運営担当者／name badge：名札／registration desk：受付

The event coordinator recorded whether each volunteer had received a name badge at the registration desk.

a. whether で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

3

語注 repair clerk：修理受付の担当者／replacement battery：交換用の電池／be included in ～：～に含まれる／quoted price：提示された料金

The repair clerk did not say if the replacement battery was included in the quoted price.

a. if で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

4

語注 station attendant：駅員／shuttle bus：シャトルバス／temporary stop：臨時停留所

The station attendant explained when the last shuttle bus would leave from the temporary stop near the bridge.

a. when で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

5

語注 community center：地域の交流施設／director：（施設の）責任者／lead：（講習会などを）進行する／first-aid workshop：応急手当の講習会／volunteer：ボランティア

The community center director announced who would lead the first-aid workshop for volunteers from nearby schools.

a. who で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

©ミライコーチング

6

語注 demonstrate：実演して示す／measure：測定する／temperature：温度／digital thermometer：デジタル温度計

The science teacher demonstrated how students could measure the temperature of the water with a digital thermometer.

a. how で始まる疑問内容の節の範囲と、文中の役割を示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

演習問題の解答・解説

1

a. 疑問内容の節の範囲と役割

範囲： if the first-aid station would remain open until the end of the sports festival

文中の役割： 主節の動詞 asked の目的語（O）。

主節では、The school nurse が主語、asked が述語動詞で、「学校の看護師が尋ねた」という出来事を表している。その尋ねた内容に当たるのが、if から始まる節全体である。

節の内部では、the first-aid station が主語、would remain open が述語であり、until the end of the sports festival は、救護所がいつまで開いているかを示している。**until 以下は remain open が表す状態の継続期間を限定しているため、節の終端は festival となる。** if だけを目的語として切り離さず、期間の情報まで含めた疑問内容全体を asked の目的語として捉える。

〈The school nurse〉 asked
S　　V

〈if the first-aid station would remain open until the end of the sports festival〉.
O

V “asked” / 救護所が開いているかどうかを尋ねた。
O “if the first-aid station would remain open until the end of the sports festival” / 体育祭の終わりまで開いているかどうかという疑問内容全体。

The school nurse asked 〈if 〈the first-aid station〉 would remain open
S　　V　　C

(until 〈the end 〔of 〈the sports festival〉〕〉)〉.
M

V “would remain” / 過去の asked を基準とする would remain。開いている状態が続くかどうかを問う。
C “open” / remain と結び付き、開いている状態を表す。
M “until the end of the sports festival” / 開いている状態が続く期間の終点を示す。

b. 全文和訳

直訳 学校の看護師は、救護所が体育祭の終わりまで開いたままでいるかどうかを尋ねた。

満点の訳 学校の看護師は、体育祭が終わるまで救護所が開いているかどうかを尋ねた。

この英文では、主節の asked が「尋ねた」という過去の行為を表し、if 節はその質問の内容を表している。would remain open は、その過去の時点から見て、救護所がその後も開いているかどうかを問題にしている。救護所が実際に開いていたかどうかまでは示されていないため、「開いていたと確認した」などと訳してはいけない。

また、until the end of the sports festival は、救護所が開いている期間の終点を表す。「体育祭の終わりまで」と「体育祭が終わるまで」は、どちらもこの期間の関係を自然に表せる。**主節の「尋ねた」と、if 節の「開いているかどうか」を保ち、期間の情報を落とさず訳す**ことが重要だ。

2

a. 疑問内容の節の範囲と役割

範囲（採用する読み）： whether each volunteer had received a name badge at the registration desk

文中の役割： 主節の動詞 recorded の目的語（O）。

主節では、The event coordinator が主語、recorded が述語動詞で、「イベントの運営担当者が記録した」という出来事を表している。whether から始まる節全体が、その記録した内容に当たる。

節の内部では、each volunteer が主語、had received が述語で、a name badge が受け取った対象を表している。at the registration desk は、この読みでは名札を受け取る場所を示す修飾語である。**名札を受け取ったかどうかという内容に、その場所の情報も含まれるため、節の終端は desk となる。** そのまとまり全体を recorded の目的語として捉える。

ただし、at the registration desk を主節の recorded にかかる修飾語と読むことも文法的には可能だ。その場合、whether 節は badge で終わり、「運営担当者が受付で記録した」という意味になる。ここでは、名札の受け取り場所を示す読みを採用するが、文脈がなければもう一方の読みも排除できない。

〈The event coordinator〉 recorded
S V

〈whether each volunteer had received a name badge at the registration desk〉.
O

V “recorded” / ボランティアごとの名札の受取状況を記録した。
O “whether each volunteer had received a name badge at the registration desk” / 受付で名札を受け取っていたかどうかという内容全体。at 以下を主節にかける別読も可能。

The event coordinator recorded 〈whether 〈each volunteer〉 had received
S V

〈a name badge〉 (at 〈the registration desk〉)〉.
O M

S “each volunteer” / ボランティア一人ひとりを指す。
V “had received” / 過去完了形。記録した時点より前の受け取りを表す。
M “at the registration desk” / 名札を受け取る場所として節内に含める読みを採用。記録した場所とする別読も可能。

b. 全文和訳

直訳 イベントの運営担当者は、各ボランティアが受付で名札を受け取っていたかどうかを記録した。

満点の訳 イベントの運営担当者は、ボランティア一人ひとりが受付で名札を受け取っていたかどうかを記録した。

この文では、recorded は「記録した」という行為を表しており、whether 節は何を記録したのかを示している。**had received は過去完了形で、記録した時点より前に名札を受け取っていたかどうか**を表しているため、その時間関係を訳でも保つ必要がある。

また、each volunteer はボランティアを一人ずつ捉える表現である。「各ボランティア」と「ボランティア一人ひとり」は、どちらもこの意味を保っている。ただし、全員が名札を受け取ったと断定

することはできない。原文が伝えているのは、それぞれの受け取り状況について記録したということだ。

なお、at the registration desk を主節にかける場合は、「イベントの運営担当者は受付で、ボランティア一人ひとりが名札を受け取っていたかどうかを記録した」という訳も成立する。この場合、場所の情報が説明する行為は異なるが、whether 節が recorded の目的語となる関係は変わらない。

3

a. 疑問内容の節の範囲と役割

範囲： if the replacement battery was included in the quoted price

文中の役割： 主節の動詞 say の目的語（O）。

主節では、The repair clerk が主語、did not say が否定の述語であり、「修理受付の担当者は言わなかった」という意味を表している。その言わなかった内容に当たるのが、if から始まる節全体である。

節の内部では、the replacement battery が主語、was included が受動態の述語である。in the quoted price は included と結び付き、交換用の電池が何に含まれるのかを示している。**be included in ～で「～に含まれる」という意味を表すため、in the quoted price まで含めて疑問内容の節を捉える必要がある。**

したがって、節の終端は price であり、if から price までのまとまり全体が say の目的語となる。if だけを切り離したり、was included で節を終えたりすると、何に含まれるかという重要な情報が欠けてしまう。

〈The repair clerk〉 did not say
S V M V

〈if the replacement battery was included in the quoted price〉.
O

V “did” / 主節の過去の否定を作る助動詞。
M “not” / say を否定する。電池が料金に含まれることを否定してはいない。
O “if the replacement battery was included in the quoted price” / 交換用の電池が提示料金に含まれるかどうかという疑問内容全体。

The repair clerk did not say 〈if 〈the replacement battery〉 was included
S V

(in 〈the quoted price〉)〉.
M

V “was included” / was included は受動態。実際に料金へ含まれていたかどうかは断定しない。
M “in the quoted price” / included と結び付き、何の料金に含まれるかを指定する。

b. 全文和訳

直訳 修理受付の担当者は、交換用の電池が提示された料金に含まれているかどうかを言わなかった。

満点の訳 修理受付の担当者は、提示された料金に交換用の電池が含まれているかどうかを伝えなかった。

この文で特に注意したいのは、**did not say の否定が主節の「言う」という行為にかかっている**ことだ。if 節の内部にある was included が否定されているわけではない。そのため、「交換用の電池は料金に含まれていないと言った」と訳すと、原文とは異なる意味になる。

また、担当者が交換用の電池が提示された料金に含まれているかどうかを伝えなかったことは分かるが、電池が実際に料金に含まれていたかどうかは、この英文からは判断できない。担当者自身がその答えを知っていたかどうかも明示されていない。

「料金に含まれているかどうかを言わなかった」と「料金に含まれているかどうかを伝えなかった」は、どちらも原文の意味を保った自然な訳である。**主節の否定と、if 節が表す疑問内容を区別して訳すこと**が重要だ。

4

a. 疑問内容の節の範囲と役割

範囲： when the last shuttle bus would leave from the temporary stop near the bridge

文中の役割： 主節の動詞 explained の目的語（O）。

主節では、The station attendant が主語、explained が述語動詞であり、「駅員が説明した」という出来事を表している。その説明の内容に当たるのが、when から始まる節全体である。

節の内部では、the last shuttle bus が主語、would leave が述語である。when はシャトルバスが出発する時を問い、from the temporary stop は出発する場所を示している。さらに、near the bridge は the temporary stop を説明し、その臨時停留所が橋の近くにあることを表している。

このように、**from the temporary stop near the bridge は、would leave という動作の出発地点を具体的に示すまとまり**である。そのため、when から bridge までを一つの疑問内容の節として捉える。節の終端は bridge であり、その全体が explained の目的語となる。

when だけを目的語として切り離したり、would leave の直後で節を終えたりすると、どこから出発するシャトルバスなのかという情報が欠けてしまう。

〈The station attendant〉 explained
S V

〈when the last shuttle bus would leave from the temporary stop near the bridge〉.
O

V “explained” / 最終便の出発時刻について説明した。
O “when the last shuttle bus would leave from the temporary stop near the bridge” / 最終便が橋の近くの臨時停留所からいつ出発するのかという疑問内容全体。

The station attendant explained 〈when 〈the last shuttle bus〉 would leave
M S V

(from 〈the temporary stop 〔near 〈the bridge〉〕〉)〉.
M

M “when” / シャトルバスが出発する時を問う。
V “would leave” / 過去の explained を基準とする出発。実際の出発は断定しない。
M “from the temporary stop near the bridge” / 出発地点を示す。near 以下は臨時停留所の位置を説明する。

b. 全文和訳 直訳 駅員は、最後のシャトルバスが橋の近くの臨時停留所からいつ出発するのかを説明した。

満点の訳 駅員は、橋の近くにある臨時停留所から最終便のシャトルバスがいつ出発するのかを説明した。

この文では、when が表すのはシャトルバスの出発時刻という疑問の焦点である。しかし、文全体は「シャトルバスはいつ出発しますか」と直接質問しているのではなく、駅員が出発時刻について「説明した」と述べている。

また、would leave は、主節の explained が表す過去の時点から見た出発を表している。ここでは出発時刻について説明したことが分かるが、シャトルバスが実際にその時刻に出発したかどうかまでは述べられていない。

「最後のシャトルバス」と「最終便のシャトルバス」は、どちらも the last shuttle bus の意味を自然に表せる。また、「橋の近くの臨時停留所」と「橋の近くにある臨時停留所」も、停留所の位置関係を保った言い換えである。

出発する時を表す when、出発地点を表す from 以下、そして主節の explained をそれぞれ正しく結び付けることで、疑問内容と文全体の意味を過不足なく訳せる。

5

a. 疑問内容の節の範囲と役割

範囲： who would lead the first-aid workshop for volunteers from nearby schools

文中の役割： 主節の動詞 announced の目的語（O）。

主節では、The community center director が主語、announced が述語動詞であり、「地域の交流施設の責任者が発表した」という出来事を表している。その発表の内容に当たるのが、who から始まる節全体である。

節の内部では、**who 自体が主語（S）であり、would lead が述語**となっている。who は「誰が」という意味で、講習会を担当する人物を問う疑問詞である。そのため、who の後ろに別の主語を探す必要はなく、主語が省略されているわけでもない。

the first-aid workshop は lead の目的語であり、何を担当するのかを示している。for volunteers from nearby schools は講習会の対象者を説明し、from nearby schools は volunteers がどこから来たボランティアなのかを示している。

したがって、**who から schools までが一つの疑問内容の節**であり、その全体が announced の目的語となる。who だけを目的語として切り離したり、would lead の直後で節を終えたりすると、誰が何を担当するのかという内容を正しく捉えられない。

〈The community center director〉 announced
S V

〈who would lead the first-aid workshop for volunteers from nearby schools〉.
O

V “announced” / 講習会の担当者について発表した。
O “who would lead the first-aid workshop for volunteers from nearby schools” / 誰が近隣の学校からのボランティア向け講習会を担当するのかという内容全体。

The community center director announced 〈who would lead
S V
〈the first-aid workshop 〔for 〈volunteers 〔from 〈nearby schools〉〕〉〕〉〉.
O

S “who” / who 自身が講習会を担当する人物を表す主語。別の主語はない。
V “would lead” / 過去の announced を基準とする担当。実際の実施は断定しない。
O “the first-aid workshop for volunteers from nearby schools” / ボランティア向けの応急手当講習会。from 以下は volunteers を説明する。

b. 全文和訳

直訳 地域の交流施設の責任者は、近くの学校からのボランティアのための応急手当の講習会を誰が指導することになるのかを発表した。

満点の訳 地域の交流施設の責任者は、近隣の学校からのボランティア向けの応急手当講習会を、誰が担当するのかを発表した。

この文では、announced が「発表した」という行為を表し、who 節はその発表内容を示している。who は講習会を担当する人物を問うが、主節ではその人物について発表が行われたと述べている。**文中に who があるからといって、責任者が担当者を尋ねたという意味にはならない。**

また、would lead は主節の過去の時点から見た講習会の担当を表している。誰が担当するかを発表したことは分かるが、その人物が実際に講習会を担当したかどうかまでは示されていない。「講習会を指導した」と過去の実施を断定する訳は避ける。

「講習会を指導する」と「講習会を担当する」は、この文脈で lead の意味を表す自然な言い換えである。また、「近くの学校」と「近隣の学校」も、nearby schools の意味を保っている。

ただし、**from nearby schools が説明しているのは volunteers であり、講習会の担当者である who ではない。**担当者が近隣の学校から来た人物だと決めつけず、講習会の対象者と担当者の関係を正確に保って訳すことが重要だ。

6

a. 疑問内容の節の範囲と役割

範囲： how students could measure the temperature of the water with a digital thermometer

文中の役割： 主節の動詞 demonstrated の目的語（O）。

主節では、The science teacher が主語、demonstrated が述語動詞であり、「理科の先生が実演して示した」という行為を表している。その実演で示した内容に当たるのが、how から始まる節全体である。

節の内部では、students が主語、could measure が述語であり、the temperature of the water が測定する対象を表している。of the water は temperature を説明し、何の温度を測るのかを明らかにしている。

さらに、with a digital thermometer は道具を示す語句である。**ここでは with 以下を measure という測定の動作に結び付け、thermometer までを疑問内容の節に含める読みを採用する。** ただし、with 以下を主節の demonstrated にかける読みも文脈上可能であり、その場合は how 節が water で終わり、先生がデジタル温度計を使って測定方法を実演したという意味になる。

したがって、節の終端は thermometer であり、how から thermometer までのまとまり全体が demonstrated の目的語となる。

ここで how が問うのは、**生徒が水温をどのような方法で測ることができるか**という点である。使用する道具は with a digital thermometer で示されているため、how を単に「どの道具を使って」と読むのではなく、その道具を使った測定方法を表すものとして捉える。

〈The science teacher〉 demonstrated
S V

〈how students could measure the temperature of the water with a digital thermometer〉.
O

V “demonstrated” / 水温の測定方法を実演して示した。
O “how students could measure the temperature of the water with a digital thermometer” / 生徒たちがデジタル温度計を使って水温を測る方法全体。with 以下は節内とする採用読み。

The science teacher demonstrated 〈how students could measure
M S V

〈the temperature 〔of 〈the water〉〕〉 (with 〈a digital thermometer〉)〉.
O M

M “how” / 水温を測る方法を問う。道具だけを問うものではない。
V “could measure” / could は測定できる可能性を表す。生徒が実際に測定したとは断定しない。
O “the temperature of the water” / 測定対象は水の温度。of 以下は temperature を説明する。
M “with a digital thermometer” / 測定手段とする採用読み。主節の実演手段とする別読では how 節は water まで。

b. 全文和訳

直訳 理科の先生は、生徒たちがデジタル温度計を使って水の温度をどのように測ることができるかを実演して示した。

満点の訳 理科の先生は、生徒たちがデジタル温度計を使って水温を測る方法を実演して見せた。

この文では、demonstrated が「実演して示した」という行為を表し、how 節はその実演の内容を示している。したがって、単に「理科の先生は水温の測り方を説明した」と訳すだけでは、**実演を伴って示したという demonstrated の意味**が十分に表れない。

また、could measure は、生徒たちが水温を測ることができるという可能性を含んでいる。「どのように測ることができるか」と表すほか、文脈に即して「測る方法」と自然な日本語に整えることもできる。ただし、先生が実演したことと、生徒たちが実際に測定したことは区別する必要がある。原文は、生徒たち自身が測定を行ったとは述べていない。

「水の温度」と「水温」は同じ測定対象を表し、「デジタル温度計を使って」と「デジタル温度計で」も自然な言い換えである。「理科の先生は、生徒たちがデジタル温度計で水温をどのように測れるかを実演で示した」という訳も、原文の意味を保っている。

この英文では、**how が表す測定方法、with 以下が表す使用する道具、demonstrated が表す主節の行為**をそれぞれ区別して読むことが重要だ。疑問内容の節全体を目的語として捉え、主節の意味と結び付けることで、実演の内容を正確に訳せる。